

ごあいさつ

「タッチケア」の「タッチ」とは「さわる」ことのみではなく「ふれ愛」の意味を含んでいます。お母さんは、赤ちゃんの目をじっと見つめたり、やさしく語りかけ、抱っこしたりという自然のスキンシップを赤ちゃんに行います。これに添えて赤ちゃんは、お母さんの目を見つめ返したり、語りかけると呼び声に顔を向けたり、口を動かしたりします。これが「ふれ愛」です。

タッチケアは、スキンシップ不足、抱っこを嫌がる赤ちゃん、赤ちゃんとのように遊んでいないのかわからない、わが子をかわいく思えない、そんな不安を感じる親子があたたかいコミュニケーションをとりながら、「親子のきずな」「家族のきずな」を深めていくお手伝いをする事なのです。日々の育児の中で、肌のぬくもりを伝えることで、成長ホルモンを促し、その刺激がお子様にとっても気持ちの良いコミュニケーションとなって、楽しい育児になることをお伝えしたいです。

具体的には、赤ちゃんとお母さんが、「見つめ合い」「語りかける」これがタッチケアの原点です。

手をつなぐ、さする、簡単なタッチケアから始めてください。我が子をかわいくと思う親の自然な行動として、楽な気持ちで始めていただけるのがタッチケアです。

日本タッチケア協会会長
橋本武夫

ふれあう



笑顔こぼれる



心がよう

自宅でタッチケアを楽しもう



だれでもできる
やさしいタッチケア：
～赤ちゃんとの絆を深めるタッチ&コミュニケーション

DVD付

2,000円(税別) A5判 55ページ

はじめてのタッチケアにおすすめ。DVDを見ながら簡単にタッチケアができます。

対象：生後2カ月～



改訂版 タッチケアマニュアルⅠ

NICU・新生児編

250円(税込) A5判 12ページ

保育器の中でもできるタッチケアを写真入りで紹介。※病院のスタッフに確認してから行ってください。



改訂版 タッチケアマニュアルⅡ

乳・幼児編

200円(税込) A5判 8ページ

生後2カ月以降の赤ちゃんのタッチケアを、写真入りでわかりやすく解説。

*ご注文は、日本タッチケア協会ホームページよりお申し込みください。



日本タッチケア協会

<https://touchcare.net/>

e-mail info@touchcare.net

日本タッチケア協会では、当協会主催の講習会を受講した専門家が、タッチケアの普及活動を行っています。



Touch Care

やさしいタッチケアを
楽しみましょう

日本タッチケア協会



タッチケア協会の活動は さまざまな場所に広がっています

ふれた人、ふれられた人、両者に生まれるあたたかい気持ち、深まる絆
親子で、家族で、施設で、保育園で、「ふれ愛」を育んでいきましょう

NICU

(新生児集中治療室)

入院中の赤ちゃんにタッチケアを行うことで、赤ちゃんの情緒安定、体重の増加、入院期間の短縮、お母さん、お父さんの不安の解消、良好な親子関係などの効果が実証されています。実は、タッチケアの始まりはNICUなのです。

乳幼児

(2カ月～)

NICU退院後を含むすべてのお子さんに、本やDVDを見ながら、自宅で行うことができます。また、産院、子育て支援施設など、いろいろな場所で教室が行われています。親子の愛着形成はもちろん、お友だちづくりの場としても、活用されています。

保育園・幼稚園

親と離れることへの不安、自分の気持ちが上手く表現できないいらつきなど、お昼寝の前やちょっとしたコミュニケーションにタッチケアが導入されています。また、保護者向けに教室を開催しているところもあります。

家族

小さなお子さんだけでなく、学童期、思春期、また、ご夫婦で、高齢の親御さんへのタッチケアなど、年齢、世代に関係なく家族のコミュニケーションのひとつとして行われています。“Touch is the language of love”と言われるごとく、タッチはまさに愛の言葉なのです。

心身障がい児(者)施設

療育センター、児童養護施設などでは、職員が子どもに Hug & Touch を行い、愛着形成・信頼関係の再構築につなげています。災害後のトラウマに対しても、リラクゼーション療法のひとつとして応用されています。

高齢者施設

職員による日常のケアやボランティアによるタッチケアが行われています。ふれた人、ふれられる人の両者に笑顔が増え、情緒が安定することが実証されています。

「タッチケア」発足ルーツ

わが国でのタッチケアのルーツは、1988年、聖マリア病院 NICU (新生児集中治療室) での保母 (現保育士) による保育器の中の赤ちゃんに手を添えることを、「タッチケア」と呼称されていました。その後、米国マイアミ大学「タッチリサーチ研究所」(TRI: Touch Research Institute、フロリダ) のティファニー・フィールド博士によって、「Touch therapy」が学究的に確立され、1997年、第9回世界小児科会議において、いわゆる未熟児 (現低出生児) への接触療法として、その研究成果が報告されました。

その研究報告を受け、翌1998年、前川喜平先生を会長に、日本タッチケア研究会 (現日本タッチケア協会) が発足し、日本では、「therapy」という名称は、そぐわないということで、ティファニー・フィールド博士と国際TV電話で会談し、当時、聖マリア病院NICUですでに使われていた「タッチケア」の名称として活動していきたい旨をお願いすると、快く快諾をいただきました。

この経緯を経て、接触療法の代名詞として、日本で最初に『タッチケア』がスタートしました。

当協会が命名した「タッチケア」という名称は、商標登録はせず、誰でもできるものとし、現在は多くのタッチケアが広がっています。NICUから始まったタッチケアですが、赤ちゃんだけでなく、年齢を問わずに実施でき、その広まりは、乳幼児から障がい児、保育園、幼稚園、家族、高齢者へと広がっています。



日本タッチケア協会は、厚生労働省が支援する国民運動「健やか親子21 (第2次)」の推進協議会参加団体です。